

30人規模学級の実施状況について

義務教育課

1 実施状況について

	項 目	校数等
(1)	中学校の総数(分校3含む)	190
(2)	該当校数	70 36.8%
(3)	実施校数	46 65.7%
(4)	(3)のうち、専科教員分を加配する校数	36 78.3%
(5)	該当するが導入を選択しない校数	24 34.3%
理由	教員(担任又は専科)の確保が困難	10 41.7%
	少人数学習を選択	5 20.8%
	教室不足で対応できない	4 16.7%
	次年度以降の見通しが不明で対応できない	3 12.5%
	校内事情(生徒指導等対応)	2 8.3%

190校中166校は、中1で1学級当たりの生徒数が35人以下となる予定。

2 30人規模学級を実施する学校

東信	小諸東中、芦原中、浅間中、野沢中、中込中、佐久中、御代田中、立科中、上田第一中、上田第三中、上田第四中、上田第六中、塩田中、東御東部中
南信	岡谷南部中、茅野北部中、原中、赤穂中、辰野中、南箕輪中、旭ヶ丘中、緑ヶ丘中、松川町立松川中、阿智中、高陵中
中信	旭町中、高綱中、丘中、広陵中、塩尻西部中、波田中、明科中、仁科台中
北信	常盤中、相森中、墨坂中、飯綱中、屋代中、南宮中、山ノ内中、豊田中、柳町中、長野東部中、裾花中、犀陵中、広徳中

3 実施校における増加学級の担任について

	項 目	校数等
(1)	少人数学習(数・英)を実施	少人数学習加配教員が担任
		20 43.5%
		少人数学習加配教員以外が担任
		24 52.2%
(2)	少人数学習(英)は実施しない。他教科の教員が担任	2 4.3%

4 取組内容等について(例)

	学校	取組内容等
(1)	東信A中学校	37人から31人となる。担任の気持ちの余裕が生まれる。担任の負担軽減。授業で個別支援を充実させる。
(2)	東信B中学校	発達障害や不登校など課題のある生徒が複数入学してくる。その生徒を分散させ、個別指導を充実させることで、落ち着いた学級づくりが期待できる。
(3)	南信C中学校	生徒指導上の課題を抱える本校において、一人一人の生徒をきめ細かくみることにより、学習指導や生徒指導面での成果を期待したい。
(4)	北信D中学校	生徒の教育環境の改善として受け止めている。学力テストで県平均や全国平均を上回る成果をあげる。
(5)	北信E中学校	1学級が2学級になることのメリットを生かす。教科により2クラス合同授業など多様な学習形態が可能になる。